

タテ社会の人間 小林寿稀也

7, 人と人との関係

この編を選んだ理由、この本にあるタイトルの「人間関係」の部分がわかりやすく書いてあるから、この本を読んで内容の中で共感できる部分が多くあったと感じたから、この編を理解すればこれまでの話の流れも理解できると感じたから、三つに分類、契約精神の欠如、相対的価値観の支配、論理よりも感情が優先、1, 契約精神の欠如、「タテ」に結ばれるエモーショナルな関係は理論的に見ると、社会組織の基盤となる人と人との関係の在り方の代表的な三つの方法のひとつである。その反対の「ヨコ」の関係の方法のひとつは、「契約（コントラクト）」関係によることである。英米において政界のあり方が日本と比較にならないほど優れているのは「コントラクト」の可能性にある。筆者の分析によると、「コントラクト」精神は日本人には全く欠如しているものである。コントラクト関係がしっかりしていないと、仕事を怠ける者が出るばかりでなく、邪魔をしたり、仕事を放棄したりする者が出たりする。自己の欲求が十分満たされないと、仕事の途中に「俺はやめる」とか「辞表をたたきつける」など、ある種のエゴイスティックな感動を味わうというやり方は、日本人の得意とするところである。親分・子分関係の強さ、エモーショナルな要素は、弱いものにとって安住の世界を作っている。新興宗教集団は、魅力的なリーダーをもち、直接接触を媒介とする「タテ」の線を集団組織の基盤としている。この基盤によって信者は、しっかりと組織網に入れられ、「私はもう一人ぼっちではない」という安定感に浸ることができる。古い歴史を持つ伝統的な教団といわれるものにも、新興宗教とは異なるが、基本的には「タテ」のつながりがみられる。極端な人と人との関係を何よりも優先するという価値観を持つ日本社会は宗教的ではなく、道徳的であるといえる。対人関係が自己を位置づける尺度となり、自己の思考を導くのである。つねに反論に対して、何ら論理的、宗教的理由付けがなく、もしそれらの発言を支えるものがあるとするれば、それは「社会の人々がそう考えている」という「社会的強制」が影響している。論理を容易に無視するこの相対的価値観は、現実の日本人の人と人との関係、やりとりに如実に発揮されている。日本における評論家という立場で、作品自体について論じているのに、ちょっとほめると「あいつは俺に好感を持っている」ととられ、ちょっとけなすと「あいつはけしからん奴だ」とくる。作品を飛び越えて人対人の直接の感情的出来事になってしまう。相反するまたは異なる主張・考えを持つ者が話し合ったり、議論をしたりすると、自分たちの主張を叫ぶばかりで、両者の間に論理的な発展がないのがふつうである。日本の代表的な文芸評論家たちが、このことを明言している。批評にとって、感情は敵となる。感情はエネルギーを結集することができても、個別的であり、またパースペクティブを欠くために、共通の場に立つ者、また同じムードを持つ者にしか通じないという、批評において決定的な弱点をもつものである。

